

令和元年度
(2019年度)

産業文化部の運営方針

<部の構成>

産業文化政策課、商工振興課、ひらかた賑わい課、
農業振興課、文化振興課、生涯学習課、プレミアム付商品券室

<担当事務>

- (1) 商工業、観光及び賑わいの推進に関すること。
- (2) 市民文化及び都市交流に関すること。
- (3) 生涯学習の推進に関すること。
- (4) 農業に関すること。
- (5) プレミアム付商品券に関すること。

<部の職員数>H31年4月1日現在

正職員	48名
再任用職員	8名
任期付職員	0名
非常勤職員	14名
合計	70名

※他団体等への派遣職員、臨時職員を除く

1. 基本方針

産業文化部は、観光、商工業、農業など産業振興と、文化芸術・生涯学習の振興を担当しており、いずれも「豊かで誇りある枚方」を実現する上で、欠かせない施策分野です。

観光分野では、「七夕伝説」「枚方宿」「舟運」といった地域資源の魅力やイベントなどを広く紹介する情報発信の取り組みを進めることで、市内外からの交流促進と賑わいの創出につなげていきます。

市内産業の振興は、地域での雇用創出や税収確保の面からも重要であり、創業支援をはじめとした新たな事業者の創出を推進し、併せて、商業団体との連携を深め、新たな商業振興事業を行うなど、商工業の活性化に向けた取り組みを行います。また、NICT（情報通信研究機構）との協定によるICT技術を用いた情報発信をはじめ「地域未来投資促進法」に基づき、枚方独自の成長分野への支援を推進し、地域産業の活性化や雇用・税収の増加につなげます。

令和3年度（2021年度）の開館に向けて枚方市総合文化芸術センターの整備を着実に進めるとともに、文化芸術アドバイザー等と連携した開館プレ事業を展開し、文化芸術の拠点形成に向けた事業の充実を図ります。

昨年度に指定管理者制度を導入した生涯学習市民センター・図書館の複合施設では、指定管理者による運営を適正に行い、施設の活性化を推進するとともに市民の文化活動を支えます。

農業分野では、後継者の育成、遊休農地の利活用など、まちづくりの観点から「農」を守る取り組みを進め、新たな特産物の創出にも取り組むとともに、エコ農産物が「ひと手間かけた、安心・安全な野菜」であることをPR強化し、販売促進につなげます。

消費税・地方消費税の10%への引上げが所得の少ない方・小さな乳幼児のいる子育て世帯の方の消費に与える影響を緩和することを目的として、プレミアム付商品券を販売します。

出入国管理法改正に伴い外国人市民の増加が想定される中、多文化共生などを踏まえた本市の国際化についての方向性をまとめます。

以上の施策を効果的に進めるため、市民や関係団体、事業者等と連携・協力しながら取り組めます。

2. 重点施策・事業

(1) 観光施策の戦略的推進	
方向性	淀川上流域も含めた舟運など、観光資源を生かしながら、市民が愛着を持ち、多くの方が訪れたいと思える魅力的なまちづくりを進めるため、平成 29 年度に策定した「観光施策に関する考え方」に基づき、公民連携で役割分担をしながら、マーケティング手法を取り入れた観光施策を戦略的に進め、東京オリンピック・パラリンピック、大阪・関西万博等を控え、インバウンドも見据えた交流人口の拡大を図ります。
取り組み	<p>民間事業者など幅広い関係機関との意見交換の場において、市で収集した観光に関する基本データを共有し、公民連携による戦略的な観光地域づくりの方向性を検討します。また、魅力あるコンテンツの創出及び情報発信力の強化に向け、マーケティングの観点から消費動向や動態データなどを継続的に収集・分析し、魅力ある観光資源の創出や公民連携による観光冊子を作成するとともに、インバウンドを含む交流人口の増加につながる効果的な新たな情報発信の手法について検討を進めます。</p> <p>《目標値》定期利用者数を除いた市内主要駅の乗降客数の増加：年間約 8 千人増 平成 31 年度当初予算：3,400 千円</p>

(2) 新たな事業者等への支援	
方向性	主体的に活性化に取り組む商店街等を支援する、「商店街等活性化促進事業」を、引き続き実施するとともに、市内で創業を目指す方の裾野を広げるため、個人で販売を行っている方が、新たに起業できるよう、創業支援の充実を図ります。 また、市内商業の振興に向けて、空き店舗の活用につながるセミナー事業を充実します。
取り組み	<p>「商店街等活性化促進事業」における“空き店舗活用事業”のさらなる活用促進を図るため、事業の PR 等を行います。また、地域活性化支援センターにおいて取り組んでいる、創業・経営に関する相談や、商店街活性化セミナー等を精査し、効果的な支援につながるよう、より一層、ニーズの把握に努め、各種事業を実施します。</p> <p>併せて、創業を志す時期から創業後のフォローまで一貫した支援に取り組むとともに、市内商店街等で創業を志すきっかけとなる事業を、新たな視点で行います。</p> <p>起業家への支援活動における、他市の先進事例等を調査し、本施策の拡充、事業間連携の可能性等について検討を行います。</p> <p>平成 31 年度当初予算：44,500 千円</p>

(3) さらなる賑わいの創出に向けた地域資源の情報発信	
方向性	「七夕伝説」をはじめ、「枚方宿」「舟運」といった本市の地域資源の魅力の紹介や各種イベント開催などの情報発信の取り組みを進めることで、市内外からの交流促進、賑わい創出につなげます。特に「七夕伝説」についてはより一層認知を広めるため、重点的にPRに取り組みます。
取り組み	「七夕伝説」ゆかりのまちを市内外にPRするため、「七夕」を発信するイベント開催などの取り組みを公民連携で進めながら、本市における「七夕」に関する伝承など様々な情報を通年発信していきます。また、枚方宿地区まちづくり協議会の活動を活かした街並みの形成を促進する取り組みや、賑わいづくりに向けた活動を支援するとともに、「枚方宿」の魅力を広く紹介する情報発信を進めます。「こうした地域資源の発信力を高めることで、まちの交流促進と賑わいの創出につなげていきます。
	平成31年度当初予算：2,050千円

(4) 農業の魅力や楽しさを発信	
方向性	農業に関心のあるシルバー世代（アクティブシニア）を主たる対象とした体験型農園での有機野菜づくりを通じて、農業の魅力や楽しさを発信し、農業の新たな担い手の育成につなげます。
取り組み	パイロット事業「ちょっと本気の野菜づくり講座」を昨年度より期間を延長して実施し、より一層の参加を募るため、後期（半期分）からの追加募集も行います。また、2カ年の実績を検証した上で令和2年度（2020年度）からの本格実施を目指し、併せて終了生がグループで農地を借りて、営農できる仕組みも検討し、遊休農地の利活用に繋がります。

(5) 特産物の創出と6次産業化	
方向性	さらなる都市農業の活性化を図るため、特産物（農産物）の創出と、商工業者との連携による6次産業化を進めます。
取り組み	農業特産物の取り組みと販路の拡大 枚方の土壌に適した特産物の品目・品種を大阪エコ農産物の基準で選定し、市内生産者団体の協力を得ながら、試験栽培に取り組み、併せて6次産業も視野に商工業者等とも連携した販路の拡大にも取り組みます。 6次産業化の取り組み 農業者と商工業者とのマッチングの機会を設け、地産地消を推進します。 なお、昨年度に6次産業化を進めたモデル事例の枚方産さつまいも鯛焼きについては、サツマイモを倍増するとともに、収穫体験の機会を設けるなど商品化のPR強化に繋がります。

(6) 枚方市総合文化芸術センターの整備	
方向性	<p>多彩な文化芸術の鑑賞をはじめ、市民の創作活動の発表機会を促進し、集客と賑わいを創出する文化芸術の拠点施設となる枚方市総合文化芸術センターの整備を令和3年度（2021年度）の開館を目指して着実に進めます。</p> <p>また、枚方市総合文化芸術センターの利用規則を定め、運営事業者の選定に着手します。</p>
取り組み	<p>昨年10月に着工した枚方市総合文化芸術センターの整備を着実に進めていくとともに、メセナひらかた会館を枚方市総合文化芸術センターの別館として一体的な運営を行っていくための改修設計を行います。</p> <p>また、枚方市総合文化芸術センターの休館日や開館時間、使用料などを条例で定め、同センターを運営する事業者の業務内容を決定し、公募による選定を開始します。</p> <p>平成31年度当初予算：2,472,962千円</p>

(7) 文化芸術の拠点形成に向けた取り組み	
方向性	<p>枚方市総合文化芸術センターの開館への機運を高めるため、開館プレ事業を展開し、文化芸術の拠点形成に向けた土壌づくりを行います。</p> <p>また、「枚方市文化芸術振興計画」に基づき、子どもや若い世代の文化芸術活動の充実を図り、本市における文化芸術の裾野を広げます。</p>
取り組み	<p>文化芸術の拠点形成に向けた機運を高めていくため、平田オリザ氏をはじめとする4人の文化芸術アドバイザーによるワークショップなどを実施するとともに、連携協定を締結した大阪フィルハーモニー交響楽団による芸術公演の鑑賞機会の提供や市内中学生を対象にオーケストラ鑑賞の機会の提供を行うなど、文化芸術事業の充実を図ります。</p> <p>また、本市ゆかりの若手芸術家による「枚方市アーティストバンク」を設置し、実力ある若手芸術家を発掘するとともに、小学校等へのアウトリーチや市主催支援事業「アート・スプラウト」に出演していただくことで、芸術家の支援と文化芸術に触れる機会の充実に努めます。</p> <p>平成31年度当初予算：21,003千円</p>

(8) プレミアム付商品券事業	
方向性	<p>市内商店等において使用できる低所得者・子育て世帯向けのプレミアム付商品券を発行し、消費税・地方消費税率の引上げが低所得者・子育て世帯の消費に与える影響を緩和するとともに、地域における消費を喚起・下支えします。</p>
取り組み	<p>国のプレミアム付商品券事業実施要領に基づき、6月から9月にかけて商品券発行に係る各種の取り組みを進め、9月24日から本庁舎及び支所等において「枚方市プレミアム付商品券」の販売を行います。（商品券は10月1日より使用開始）</p> <p>《目標値》 商品券取扱店舗：1,000店 ※幅広く参加店舗を公募</p> <p>平成31年度当初予算：660,890千円</p>

3. 行政改革・業務改善

◆新行政改革実施プランの改革課題

改革課題	取り組み内容・目標
2. 来庁者・利用者用駐車場の有料化の実施	・生涯学習施設の駐車場については、支所、図書館と連携しながら受益者負担や駐車場管理の適正化の観点を踏まえ、引き続き、有料化に向けた検討を進めます。
14. 外郭団体等の経営健全化の促進	・特定非営利活動法人枚方文化観光協会については、平成 28 年度に策定した 5 か年の経営計画における進捗管理を行います。また、市立枚方宿鍵屋資料館の指定管理期間が 5 か年の最終年度となることを踏まえ、本市の観光施策に関する考え方に基づき、戦略的な観光地域づくりにおける今後の役割について同協会と協議します。 ・平成 31 年 2 月に公益財団法人枚方市文化国際財団が策定した「解散に向けた年次計画」に基づき、令和 3 年（2021 年）3 月末に同財団は解散する予定です。 解散を見据え、同財団が担っている「文化芸術事業」と「国際交流事業」について、新たな推進体制について引き続き検討します。

◆業務改善のテーマ・目標

テーマ	取り組み内容・目標
部内連携による事務執行体制の確立	部内各課の担当者レベルのワーキンググループを設置し、情報発信の充実や各課が取り組む事業を組み合わせた新たな魅力ある施策の創出等を図ります。

4. 予算編成・執行

- ◆包括外部監査等の指摘や、これまでの事業の実績等を踏まえ、イベント等の内容や委託、補助金の見直しに取り組むとともに、国等の様々な補助金等の有効活用を行うなど、より効率的な予算編成・執行管理に努めます。
- ◆枚方市総合文化芸術センターの開館に向けて文化芸術ソフト事業を充実するため、今年度採択された「文化芸術創造拠点形成事業」（国庫補助金 624 万 8 千円）を活用し、取り組みを進めます。

5. 組織運営・人材育成

- ◆産業文化部の業務は、市民や関係団体、事業者等との連携が重要であることから、研修やOJTを通じ、コミュニケーション能力や専門性を高めていくとともに、部内のイベントをはじめスケジュールを共有し、業務の円滑な遂行に努めながら、計画的な有給休暇の取得などワークライフバランスの実現に向けた取り組みを促進します。
- ◆産業文化部各課の業務の関連性を踏まえ、事務内容や新たな取り組み課題に係る企画等について、組織内で知識・認識等の共有化を図り、計画的な事務執行に繋げ、自らが考え行動する自律型職員の育成を図ります。

6. 広報・情報発信

- ◆産業文化部で実施する様々な取り組みについて、広報ひらかたやホームページのほか、マスメディアや地域メディア、ツイッター、フェイスブック、インスタグラムなどを活用し、よりわかりやすく、効果的な情報発信に努めるとともに、多言語化や各種団体等との意見交換会の場など、様々な機会を通じ、施策の周知に努めます。
- ◆枚方市総合文化芸術センターの開館準備号を発行し、市内外に配布することで、枚方市に文化芸術創造拠点が誕生することをアピールしていきます。